

開会の挨拶

第二管区海上保安本部長 岩崎 茂

本日は、年も押し迫る大変お忙しい中、塩釜の地にお集まり戴きありがとうございます。ここに67回目の東北海区海洋調査技術連絡会を開催できますことは、皆様方のお蔭と思っている次第です。

さて、ここ最近の新聞やテレビを賑わせている話題として、東北の日本海側に漂着している木造船があります。海上保安庁が対応にあたっているところですが、これは気圧配置による風の影響に潮流や海流が加わって漂着しているものであり、このニュースにより多くの方々が海流に関心を持ち始めていると思っております。

また、今年は東日本大震災から6年経過しましたが、震災により東北の基幹産業である漁業も多くの被害を受けました。震災から6年が経過し、漁船、漁港、水揚げ施設や養殖施設も増え、そして多くのガレキで埋もれていた漁場が整備され、ようやく漁業の復旧・復興がされてきた状況です。

その様なこともあり、親潮、黒潮、津軽暖流が複雑に混じり合う世界有数の漁場と言われている三陸沖では、多くの漁船が漁業を行っている状況です。この漁業関係者は、日々刻々と変化する海洋現況を非常に気にしており、海洋データを取得しながら、魚群を追いかけております。

また、海上保安庁の重要な業務でもある海難救助において、一番重要なことは救助を求めている遭難船舶、漂流者を一刻も早く発見することが大切なことでもあります。我々が救助活動を行うにあたって、皆様方から頂いた海流データを踏まえて漂流予測を行い、この漂流予測結果に基づいて巡視船・航空機を差し向けるといったことを行っております。

この様に海洋をめぐるプロキシを踏まえながら、本日、14機関の皆様が一同に会し、それぞれの調査・研究発表、情報交換を行うのは非常に有意義であると思っております。

四面を海に囲まれた我が国において、皆様の仕事は海に係わる仕事であり、それぞれの分野でその取り組み方が異なっておりますが、美しい日本の海を愛し、育み、そして海で活動されている方々を支えていくといった気持ちは一緒であると思っております。

本日から2日間において、活発な討論や研究発表を通じて本会が実りある場となりますことを期待いたしますとともに、本会の益々の発展を祈念しまして私の挨拶とさせていただきます。